

# 人生ハンド仏句

第95号

H. 22. 2. 1  
(毎月1日発行)

編集・発行

玉蓮山 真成 寺

編集部 谷川久仁子

TEL・FAX (0765)22-2268

メールアドレス

kokorochanthk@ybb.ne.jp

ホームページアドレス

<http://www.geocities.jp/>

[sinjyoujitoyama108/](http://sinjyoujitoyama108/)

## 「信じる」

### ということ

住職 谷川寛俊

ご神仏（諸天善神様）が、実際にこの世に存在しているという事を信じられる人はいったい何人いらっしゃるでしょうか？

姿、形が目に見えないものだからなかなか信じ難いものですが、よく考えて見ると、姿、形のないものは此の世に沢山あります。人の心は勿論のこと、電気や電波もそうです。大自然の中には肉眼で見えないものが本当に沢山あるものですが、その存在をだれも疑いません。それは化学的な証明がされているからです。

従って御神仏の世界も、単に目

に見えないから信じないというよりも、証明されていないから信じきれないと言った方が良いのかも知れません。しかし証明出来ないものは全て存在しないと考えるのは正しいことでしょうか。現代の科学では神仏や霊の世界は、まだ十分に解明されないだけなのです。アメリカやヨーロッパ等の多くの国には「心靈協会」を始め、公的な機関でこれらを専門に研究するところが沢山有り、その存在を認められています。ところが、日本では霊的な世界は、外国のように余り研究されていないのが現状なのです。御神仏の心や私達の魂、「霊」といわれるものは数字の「0」に通じるものがあると言われます。即ち「0」という数字は、眼前に取り出すことは絶対に出来ませんが、概念として確実に存在します。もし「0」という数字がなければ、世の中のあるゆる事は成立しません。霊的工ネ

ルギーも同じことで、皆の前で見える形を取り出すことは出来ないだけのことです。「無」ではないのです。仏教の教えで「蘊在（うんざい）」という言葉があります。

これは「姿無くして存在する状態」のことです。草木の種の中に、いざれ咲く花びらが内在されているのと同じです。万物は全て「蘊在」から「顕在（けんざい）」（目に見える姿）へと変化していきます。そして又「蘊在」に戻っていきます。死とは、眼に見えぬ、生まれる前の世界に帰って行くだけのことなのです。

毎朝お唱えさせて頂いている

『如来寿量品』の中にある「質直に

して心柔軟」とは、我が無くなる事、我が無くなった者は仏様の教えを求めようになります。そういう柔らかい心持ちの中から「身命を惜しま

ぬ」という大きな勇気が出て来ます。そして、「一心に仏様を見立てまつらんと欲する心」が起ります。そのような心持ちになった時、初めて見えて来るものがあるのではないのでしょうか。

御神仏の存在とその教えは、私達の頭の中で、理屈で考えても見えてきません。本当に素直に、無条件に「信じる」という気持ちがあれば、開かれて来ない世界なのであります。よくよく心しなければなりません。

空(くう)は形のない  
目には見えない  
宇宙にみなぎるエネルギー